

脱炭素を目指すまちづくり

～杉並区ゼロカーボンシティ宣言～

今、世界では、地球温暖化の影響により、干ばつや豪雨、台風などが強大化し、大規模な自然災害が発生しています。また、自然生態系の変化や猛暑による熱中症被害など、温暖化の脅威は決して私達から遠い世界の話ではなく、一人ひとりの暮らしや命にかかわる身近な問題となっています。

杉並区は、これまで、再生可能エネルギーの活用や省エネ対策の推進を図るなど、地球温暖化防止に資する取組を進めてきました。また、自然災害等に対応するための防災、減災対策やみどりの保全など、区民の暮らしを守る取組を多面的に展開してきました。

一方で、温暖化は急速に進行しており、今後も自然災害の更なる頻発化、激甚化が危惧されています。こうした事態は、もはや「気候変動」ではなく、「気候危機」とも言える事態になっており、これまで以上の取組が求められる喫緊の課題となっています。

そこで、杉並区は、令和32(2050)年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「2050年ゼロカーボンシティ」を目指すことをここに表明し、区民や事業者の皆様とともに脱炭素社会の実現に向けた取組を強力に進めます。

温暖化の進行を食い止め、良質な住宅都市として発展してきた杉並区の環境を将来世代に引き継いでいくため、全力で取り組んでいきます。

1 分野横断的な脱炭素のまちづくり

杉並区は、令和3年11月に2050年ゼロカーボンシティを目指すことを宣言しました。

これまで地球温暖化防止に資する取組を進めてきましたが、2050年ゼロカーボンシティを実現するためには並大抵の努力では実現できず、まちづくりや産業をはじめとした様々な部門において、区民、事業者、行政等が連携して温室効果ガスの排出を削減する取組を推進することが重要です。

こうしたことから、まちづくり基本方針では、道路・交通体系の改善、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー対策、グリーンインフラの活用など、分野横断的に脱炭素化の実現に向けた環境負荷の少ないまちづくりや都市構造の実現などの視点を示し、2050年ゼロカーボンシティ実現に向けたまちづくりを強力に推進します。

2 まちづくり基本方針における脱炭素社会の実現に向けた考え方について

まちづくり基本方針においては、「基本姿勢」や「改定における基本的な考え方」に脱炭素社会の実現に向けた視点を位置付けるとともに、総合（分野別）方針の一つとして、「ゼロカーボンシティを目指すまちづくり方針」を掲げました。こうした脱炭素化の考え方は、土地利用・市街地整備方針や道路整備方針などの他の総合（分野別）方針に反映し、各分野の取組と連携しながら「みどり豊かな住まいのみやこ」の実現に向けた取組を進めていきます。

みどり豊かな 住まいのみやこ

